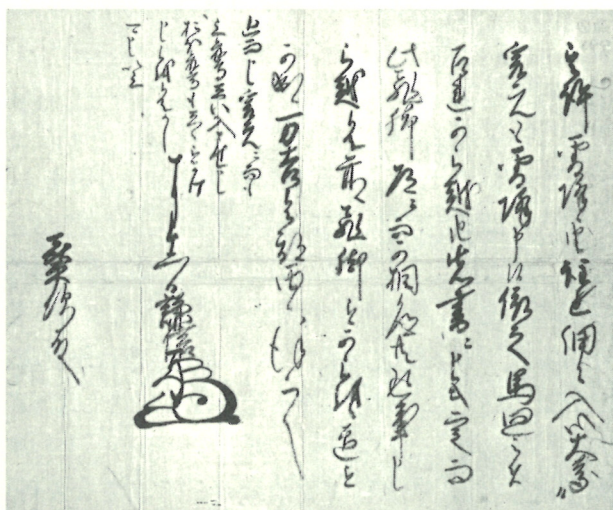


中世複製文書特集

当館では、新潟県史編さん室がマイクロフィルムなどで撮影した中世（鎌倉～戦国・織豊時代）文書を紙焼きして閲覧に供しています。中世文書の多くが活字化されている現状がありますが、原本確認あるいは写真版での確認は研究上、重要なステップであることに変わりはありません。また、研究目的でなくとも、著名な歴史上の人物が発行した文書は、見ごたえがあり楽しいものです。今回は、中世複製文書のうち、代表的な米沢上杉家文書、反町英作氏所蔵の中世武家文書を中心にその概要と閲覧方法を紹介します。

● 上杉家文書（国宝）

【上杉家文書とは】



10月12日付上杉謙信書状（宛名の喜平次はのちの上杉景勝）
新潟県史No.885

越後の戦国武将上杉謙信は、おそらく新潟県人にとって最もよく知られた歴史上の人物といつてよいでしょう。仏教を厚く信奉し、「筋目」を重んじたというその人物像にファンも多いことと思います。

上杉謙信はもと長尾景虎といい、越後守護代長尾一族の出身なのですが、永禄4年（1561年、32才）に、関東管領山内上杉家の名跡を継いで、以後、上杉氏を称します。名は政虎、輝虎と変わり、出家して謙信と名乗ります。

上杉謙信は生涯独身を通したこともあり、死後跡目をめぐって御館（おたて）の乱が起こります。これに勝利した甥で養子の景勝は、豊臣秀吉に従って越後・佐渡を支配下におきますが、慶長3（1598）年には、秀吉の命により越後から会津（東蒲原を含む）へ移り、佐渡・出羽国置賜・仙北などをあわせ領する大大名となります。しかし、慶長5（1600）年関ヶ原の合戦の結果、上杉家は会津・佐渡を失い、

以後、徳川家康に服属して明治初年まで米沢藩主として活躍することになります。

私たちが、「上杉家文書」と呼んでいるのは、この米沢藩主上杉家に伝来した越後以来の古文書群のことです。

上杉家文書は、平成元（1988）年、十六代当主上杉隆憲氏より米沢市に寄贈され、現在は新装された米沢市上杉博物館で大切に保管されています。

【上杉家文書の構成】

上杉家文書は、①赤筆筒（乾）入文書、②赤筆筒（坤）入文書、③両掛入文書、④精選古案両掛入文書、⑤黒塗掛硯箱入文書といった具合に、箱などの容器ごとにグループ分けされています。

このうち②⑤は、江戸時代以降明治にいたる文書で、①③④のグループの多くが越後時代の長尾氏・上杉氏に関わる中世文書ということになります。年代的には建久7（1196）年のものが最古です。

これら中世文書の差出人に注目すると、長尾氏・上杉氏の家臣はもちろん、武田・北条など周辺の戦国武将、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康ら天下人、室町幕府の将軍や天皇・公家衆、といった具合に豪華な顔ぶれが並び、日本史全体との関わりが直接的に見て取れます。

また、宛名に注目すると、長尾氏・上杉氏宛て文書では、上杉謙信・景勝宛て文書のほか、5系統（関東管領山内上杉氏文書・越後守護上杉氏文書・府内長尾氏文書・古志長尾氏文書・邦景系長尾氏文書）の背景の異なる文書が確認され、これに直江氏・山吉氏・河田氏ほか家臣宛て文書など、本来、上杉家には伝来しないはずのものも加わります。

個々の内容は様々ですが、総じて、中世の越後はもちろんのこと、関東や北陸におよぶ地域の政治や社会を考察するうえで欠かせない史料群であることは間違いありません。

【国宝指定】

上杉家文書は、こうした内容面での重要性のみならず、畳み方や封など文書が作成された当時の姿をよく残している点に高い価値が認められています。

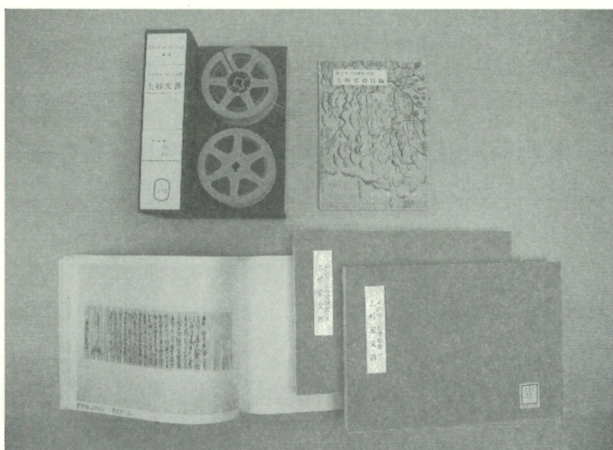
すでに、昭和55(1980)年、国の重要文化財に指定されていましたが、平成13年6月22日には、武家文書としてはじめて国宝指定を受け(2018点・4帖・26冊、附として歴代年譜325冊・筆筒2棹・箱3合)、現在、武家文書研究の最高峰と評価されています。

【当館での閲覧】

新潟県では、新潟県史編さん過程(事業は昭和51年度から平成2年度まで)において、①赤筆筒(乾)入文書③両掛入文書④精選古案両掛入文書のすべてを、封紙などを含めてマイクロフィルムに撮影しています。上杉家文書が国宝指定に先立って補修された現在、このマイクロフィルムは、それ以前の状態を記録する唯一のものとして貴重な価値を持つものです。

新潟県史編さんの成果を受け継いでいる当館では、今年度、全てのコマの紙焼き製本を完了させ、閲覧に供しています(1230点。従来は、『新潟県史』収録分を大判写真ファイルで文書本体部分のみ提供)。たくさんの方からご利用いただけることを期待していますが、利用にあたっては、「複写制限」がかかっていますのでご注意ください。コピーをご希望の方は、事前に所蔵者米沢市上杉博物館の了解をお取りいただく必要があります。

また、閲覧請求にあたっては、上杉家文書とは別に「上杉文書」と呼ばれる史料群があることにもご



上杉家文書の複製本(下)と上杉文書のマイクロフィルム(上)

注意ください。これも米沢市上杉博物館で保存されているもので、当館においては、雄松堂書店のマイクロフィルム版を揃えています。内容的には近世米沢藩の藩政文書というべきものとなっています。ただ、家臣の先祖書などを含んでおり、そこには当然越後時代の記述も登場しますので、越後中世史研究にとっても利用可能な史料ということはできます。

【史料集・関係図書】

上杉家文書の刊行史料集としては、『新潟県史資料編3中世一』(1024点収録)のほか、東京大学史料編纂所『大日本古文書 家わけ第十二 上杉家文書』(1099点収録)があります。『新潟県史』は、もとの容器・抽斗・袋ごとに掲載し、文字の翻刻のみならず形態なども丹念に記述しており、関係者から高い評価を得たものですが、残念ながら品切れとなっており、入手は困難な状況になっています。

当館の閲覧室には、『新潟県史』・『大日本古文書』はもちろんのこと、『越佐史料』(高橋義彦編)、『越後国郡絵図』(米沢市上杉博物館所蔵、東京大学史料編纂所刊)、『歴代古案』(米沢市上杉博物館所蔵、続群書類従完成会刊)、『謙信公御書集・覚上公御書集』(東京大学文学部所蔵、臨川書店刊)、『上杉家御年譜』(米沢市上杉博物館所蔵、米沢温故会刊)などの史料集、『上杉氏の研究』(阿部洋輔編、吉川弘文館刊)、『定本上杉謙信』(池亨・矢田俊文編、高志書院刊)などの基本文献を配架してありますので、あわせてご利用ください。

●反町英作氏所蔵文書(越後文書宝翰集〈国重文〉ほか)

反町氏所蔵の『越後文書宝翰集』は、長岡市出身反町十郎氏の収集にかかるもので、現在は、東京都在住のご令息英作氏の所蔵となっています。昭和55(1980)年には、上杉家文書と同時に国の重要文化財に指定されています。

上杉家文書とともに、越後中世史研究上では欠かせない双璧をなす文書群といってよいでしょう。

内容は、44巻722点に及ぶもので、中世越後の武家文書的一大集成となっていますが、さらに細かく見ると、次の18の文書群からなっています。

『越後文書宝翰集』の構成

文書群名	巻数	点数	荘保名	郡名
色部氏文書	10	198	小泉荘	岩船郡
河村氏文書	1	8	荒川保	岩船郡
三浦和田氏文書	6	105	奥山荘	北蒲原郡
三浦和田 中条氏文書	1	12	奥山荘	北蒲原郡
三浦和田 黒川氏文書	5	92	奥山荘	北蒲原郡
三浦和田 羽黒氏文書	2	19	奥山荘	北蒲原郡
築地氏文書	3	46	奥山荘	北蒲原郡
大輪寺文書	1	14	奥山荘	北蒲原郡
大見安田氏文書	1	25	白河荘	北蒲原郡
大見水原氏文書	1	22	白河荘	北蒲原郡
小田切氏文書	1	28	小川荘	東蒲原郡
毛利安田氏文書	4	51	鶴川荘 佐橋荘	刈羽郡
斎藤氏文書	2	14	赤田保	刈羽郡
上野氏文書	1	29	波多岐荘	中魚沼郡
発智氏文書	2	31	藪神荘	北魚沼郡
段銭日記	1	3		
雑文書	1	20		
雑集	1	14		

（『新潟県史』資料編4中世二「解説」による）

上の表を見ると、下越・中越地域の武士団に限られ、とくに戦国時代に「揚北（あがきた）」「奥郡（おくぐん）」と呼ばれた阿賀野川以北の地域に集中している点が注目されます。上杉家文書が上越・中越地域の守護代・国主文書である点と対照的です。

ここに登場する9つの武士団は、いずれも鎌倉時代にそれぞれの地に地頭職を得て関東から来越した者ばかりです。室町・戦国時代には、「揚北衆」と呼ばれ、上越・中越の長尾・上杉勢力と対抗した自立的な武士団でもありました。江戸時代においては、米沢上杉家中として活躍しており、文書も、明治初年まではもともとそれぞれの末裔のもとに保存をされていたものと考えられます。



文永9年8月25日付鎌倉將軍家政所下文（最奥の相模守平朝臣は執権北条時宗）新潟県史No.1483

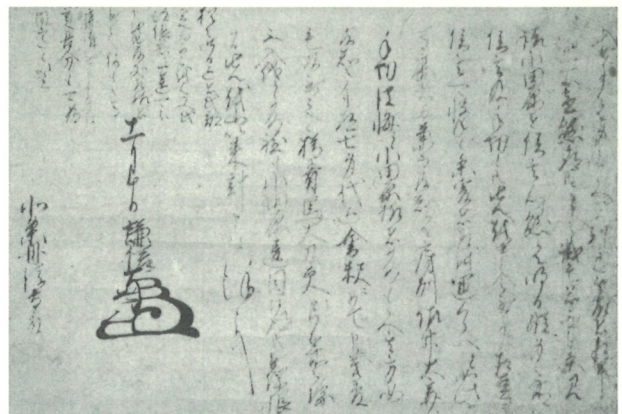
当館での利用については、上杉家文書と同様に紙焼き製本した複製物によって閲覧が可能です。こちらは、複写制限はありませんので、コピーについての所蔵者に対する事前連絡は不要です。ただし、出版・掲載にあたっては許諾を得る必要があります。

また、『宝翰集』には含まれませんが、市川氏文書（県史では翻刻省略）・村山氏文書も撮影してありますので、あわせて閲覧が可能となっています。

● その他の中世文書

これらのほか、当館では、『新潟県史』収録の中世文書の大部分を写真版で閲覧することができます。

また、原文書として、上杉謙信書状（E22-2、写真下）と上杉景勝朱印状（F1-0）の2点を保存しています。これらは当館収蔵の原本中、最も古いものになりますが、閲覧は、原本保存の観点から、写真版での閲覧をお願いしています。



（元龜2年）11月10日付 上杉謙信書状（前欠）当館所蔵

● 仏教新聞 (ぶっきょうしんぶん, 複写)

明治19 (1886) 年 3 月 5 日付 (第1号)~

明治20 (1887) 年 6 月 5 日付 (第32号)

仏教会 (長岡市、大橋佐平のち永井善弥社主) の編集で、宗教界の記事が中心となっています。月3回5の日に刊行されました。

ただし、2, 3, 5, 6, 7, 10, 13, 15, 19, 20, 23, 24号は欠本。

● 阿部家旧蔵昭和戦後スポーツ紙 (すべて原本)

昭和24 (1949) 年から同31 (1956) 年の間に発行された11紙で、欠本の多いところもありますが、各紙面からはスポーツ (特に野球や学生スポーツ) 人気急上昇の熱気がじかに伝わってきます。また、映画や芸能界の記事も多彩で、当時の世相の一面がよくうかがわれます。 (請求記号 E148)

● アサヒスポーツ

昭和26 (1951) 年 8 月 8 日付 (増刊号)、

昭和27 (1952) 年 8 月 2 日付 (第787号)、

昭和27 (1952) 年 8 月 9 日付 (第788号)、

昭和27 (1952) 年12月27日付 (第808・9号)

昭和29 (1954) 年 1 月 9 日付 (第863号)~

昭和29 (1954) 年 8 月 7 日付 (第893号)

朝日新聞東京本社発行の週刊 (土曜刊) 紙。

● 週刊日本野球 (しゅうかんにっぽんやきゅう)

昭和28 (1953) 年 1 月 3 日付 (第239号)

日本野球連盟出版部発行の週刊 (土曜刊) 紙。

● 週刊野球新聞 (しゅうかんにやきゅうしんぶん)

昭和28 (1953) 年 1 月 8 日付 (第206号)

スポーツ出版社 (東京都) 発行の週刊 (木曜刊) 紙。

● スポーツニッポン

昭和30 (1955) 年 4 月10日 (第2249号)~

昭和30 (1955) 年12月29日 (第?号)

スポーツニッポン新聞東京本社の日刊紙。

● スポーツ毎日 (—— まいにち)

昭和26 (1951) 年 8 月 1 日付 (臨時号)、

昭和27 (1952) 年 8 月 1 日付 (第239号)

毎日新聞社 (東京都) 発行。

● デイリースポーツ

昭和26 (1951) 年 4 月 3 日付 (第804号)、

昭和30 (1955) 年10月 3 日付 (第2438号)~

昭和30 (1955) 年10月25日付 (第2460号)、

昭和31 (1956) 年 1 月 1 日付 (第2529号)~

昭和31 (1956) 年 1 月31日付 (第2557号)

デイリースポーツ東京本社発行の日刊紙。昭和23 (1948) 年8月創刊。

● 日刊オールスポーツ (にっかん ——)

昭和26 (1951) 年 4 月 3 日付 (第378号)

日刊オールスポーツ新聞社 (東京都) 発行。

● 日刊スポーツ (にっかん ——)

昭和24 (1949) 年 9 月 5 日付 (第1269号)、

昭和29 (1954) 年 1 月 8 日付 (第2846号)~

昭和29 (1954) 年 8 月20日付 (第3069号)

2月以外は各月数日分のみ。

昭和30 (1955) 年10月 1 日付 (第3472号)~

昭和31 (1956) 年 1 月31日付 (第3593号)

日刊スポーツ新聞社 (東京都) 発行。昭和21 (1946) 年3月創刊。

● 日刊スポーツニッポン (にっかん ——)

昭和25 (1950) 年 5 月 1 日付 (第453号)~

昭和26 (1951) 年12月23日付 (第1053号)、

昭和27 (1952) 年 2 月14日付 (第1105号)~

昭和28 (1953) 年12月 3 日付 (第1760号)、

昭和29 (1954) 年 1 月 5 日付 (第1792号)~

昭和30 (1955) 年 2 月24日付 (第1842号)

スポーツニッポン新聞東京本社発行、昭和25年3月創刊。昭和30 (1955) 年4月 (日付未確認) から「スポーツニッポン」と改題。

● 報知新聞 (ほうちしんぶん)

昭和29 (1954) 年 1 月10日付 (第26110号)~

昭和31 (1956) 年 2 月14日付 (第26864号)

報知新聞社 (東京都) 発行の日刊紙。

● 読売ジャイアンツ (よみうり ——)

昭和26 (1951) 年 4 月 1 日付 (4号)~

昭和28 (1953) 年 1 月 1 日付 (26号)

読売新聞社 (東京都) 発行。不定期刊。

編集・発行 新潟県立文書館

〒950-8602 新潟市女池南3丁目1番2号
TEL.025-284-6011 FAX.025-284-8737

H P <http://www.lalanet.gr.jp/npa/>
Eメール archives@mail.lalanet.gr.jp